

♪「五十嵐美穂 アコーディオンリサイタル」ぶらり訪問記♪

日 時 2010年5月13日(木)19:00 開演
会 場 めぐるパーシモンホール(小ホール)
交 通 東急東横線「都立大学」駅より徒歩
7分
入場料 前売 2000円(小、中学生 1000円)

五十嵐美穂さんのリサイタルを聴くのは1年ぶり、昨年に続き2度目になります。プログラムは昨年同様間に休憩を挟んで2部に分かれていました。

第1部は「マロニエの木蔭」「情熱のルンバ」「想い出のポレロ」「別れのブルース」「夜のプラットホーム」「東京ブギウギ」と昭和歌謡の中からルンバ、ポレロ、ブルース、ブギ、とリズムの違った曲を用意していました。このような構成は他の方の演奏会ではあまり見かけないと思います。

衣装もお母さまの着物地で仕立てられた淡いピンク色のドレスでの演奏でした。そのデザインと色合いが昭和のイメージととても良く合っていました。

第2部は、プログラムのサブタイトルに(和洋名曲の夕べ:クラシックと昭和歌謡)とあるように、「セビリアの理髪師」「運命」「チゴイネルワイゼン」「序奏とロンド・カプリチオーソ」とこちらはクラシックでまとめています。

演奏者のコメントによると『悪魔に取り付かれたように指を動かさなければならぬ曲が多く、ようやく曲のイメージがつかめるようになってきた』『中でも最後の演奏曲「序奏とロンド・カプリチオーソ」(カプリチオーソとは気まぐれなというそうです)は演奏時間が13分ほどの曲で私にとって現在の到達点』と言われるように大変ボリュームのある演奏でした。

途中休憩を挟んではいますが、1部、2部

を通して、全曲暗譜で全て立奏ですから「序奏とロンド・カプリチオーソ」などは、くり返しがあるとはいえ最後に弾く曲とはとても思えませんでした。

昨年、リサイタルの会場で、ヨガを習い始めたとおっしゃっていたので、その効果の表れなのでしょう。

今年で5回目のリサイタルだそうです。観ていて感心したのは、1曲ごとに立ち上がったところで、顔は正面を向いたまま右手を鍵盤側の楽器の底の角に手の平を添えていたことです。演奏が始まると、鍵盤を覗き込むことなく低音域から高音域へ、その逆もいとも簡単に飛んでいたのが(アコーディオンの鍵盤の距離を確認していたのだろうか?)とっていました。

もう一つは、楽器を身体にぴったりつけていたことです。遊びが少しも無かったように思います。そうでないとベローを瞬間にピシッと止められないでしょう。ですから、姿勢がとっても良いのです。指もしなやかで無駄な動きがない分音がとってもきれいに聴こえます。昨年よりまた上手くなったように思いました。

写真は、アンコールに答えて「東京ブギウギ」を演奏したときのスナップです。

(記:乙津)



